桜井市こども食堂terra.co.yaまちの食堂

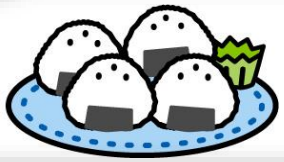


第3日曜日 開催





桜井駅南口を東に向いてテクテク。徒歩５分ほど…。
こども食堂の黄色い旗を目印に曲がるとterra.co.ya(てらこや)まちの食堂が見えてきます。一軒家の前にはスタッフ（保育士）イチ押しの本が並べられています。今月のお勧めはこどもに読んであげてほしい本と夫婦のトリセツの本が並んでいました。(笑)



受付には小5男児。満面のニコニコ顔で迎えてくれました。
取材者がツボを見て「これは何？」「おみそのみっちゃん‼誕生日は４月の14日。来月にあけるよ。めっちゃ、たのしみ～」と教えてくれました。男児の保護者は「てらこやに毎回通い、お手伝いをさせてもらうことで、こどもがすごく優しくなったんです☹」と教えてくれました。



代表者は、元、中学校教諭で陸上部顧問。学生時代にアフリカの生活に触れ、その時に経験したことから“地域に根付いた活動”をしたいと考えたことが、こども食堂を始めたきっかけ。教諭時代の教え子やその保護者、いろんな職種の人がボランティアでつながっている。「点と点だった人同士が活動を通して線となっていく。それを感じることも楽しみのひとつです」と話してくれました。



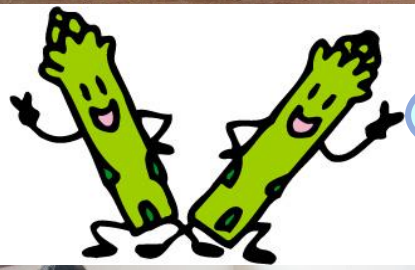




この日のメニューはカレーライス。そばにあるカードは新作のデザートの交換券。おだんごが入ったしゅわしゅわと炭酸の効いたスッキリデザートでした。中にはカレーを４杯おかわりする子もいて大盛況でした。



取材をした大学３年生の女子の友だち。「学校は行ってるけどしんどいことばかり…☹。月１回ここへ来てみんなと話す、それだけで充電になる！」と話していました。代表者はこども食堂の旗を立てれば、こどもを中心に地域の人が集まってくるそんな場所にしたいと話されていました。また、地域の文化も絶やしたくないという強い思いで、この日は大和出雲人形の色付けにも挑戦。食事の後、講師を招いて自分のたったひとつだけの出雲人形が出来上がりました。



あとがき

おなかがいっぱいになると、「外で遊んでくるぅ～」と飛びだしていくこどもたち。決して広くはない路地でサッカーをしたり、追いかけっこをしたり…。
またインスタグラムに活動を投稿すると、そこからつながっていき、もう6～7年のおつきあいで互いを刺激しあっているという話も聞きました。取材者が昔、学年を超えて路地で遊ぶ(場所を共有する)ことからつながっていったことを思い出しました。平成を間に昭和と令和がうまく溶け合っているような懐かしさと新しさを同時に感じたようなterra.co.yaまちの食堂でした。





パパ
フーフー
してぇ～





自分でフーして食べる!!